

昨春同志社へ身長二〇四センチのジャンボ選手、沼田君を迎えて、バスケットボール部のムードは、が然盛り上がった。大正十三年創部以来、歴代の部長、監督、部員諸氏の血の滲む努力のお蔭で、地味ながら同志社らしいスマートな、そして知性の溢れた伝統を受継ぎ、関西、西日本では屈指の強力チームとして君臨してい

たものの、全日本となると関東勢の壁は厚く、優勝戦線グループには仲々突入出来なかった。それは丁度オリンピック等の国際試合において、米国、ソ連といったバスケットボールの強剛国と対戦したアジア諸国が、い

かんともしがたい長身選手の、恰も屏風が立ち塞がっているような防禦陣を破ることができないのに似て、同志社も、技術気力では負けなかったが、長身選手不足を嘆いたものであった。

斯様な悩みをかかえていた所へ、日本一の長身選手が同志社の校風とバスケットボ

ール部の和氣藹々たるムードにひかれ、東西有名大学の勧誘に見向きもせず入学してくれたのである。そして新人沼田君は時のコーチ高原君、トレーナー菅野君はじめ、上級生の献身的ともいえる指導のもとに目を睜る成長をとげ、十一月の全日本学生選手権決勝で明大に敗れはしたものの、同志

十五名の編成にあたり、十代ではただ一人選出され、彼の長身を利したブレイは国際試合を舞台に活躍するのも目前に迫って来たのである。

同志社として彼を全日本チームへ送り出すことは喜ばしく名誉なことではあるが、半面海外遠征、強化合宿等の為、同志社の

同大バスケット

ボール部への期待

山本益三

(昭和27年大学工学部客員バスケットボール部監督)

社の人気は、ジャンボ君こと沼田選手の一年らしい初々しきとともに絶頂に達したものである。沼田君は当時稍々人気が先走りした感があったが、本年に入り「全日本総合」「学生対実業団オールスター戦」を経て、愈々実力もつき、来年のミュンヘンオリンピックを目指す日本ナショナルチームの選手に育つてくれることは間違いないと楽しみにしている次第である。

式戦（西日本学生・関西学生リーグ等）に本年はほとんど出場できない悩みもある。しかしながら、大局的に見てチームメイトもOB各位も、喜んで彼を送り出しているのである。これはジャンボ君の非常に素直で謙虚な性格の賜であり、このまま今の気持を持続し、努力を怠らな

ければ技量だけでなく、人間的にも丁度彼の手足の如くすくすくと成長してくれ、同志社の名を日本に、いや世界にますます広めてくれる可能性を秘めており、関係各位の暖かい御支援、御激励に応え得る立派な選手に育つてくれることは間違いないと楽しみにしている次第である。